さとうきび通信

令和2年：5月号

発行日：令和2年5月10日

生　和　糖　業　株　式　会　社

発　行　・　編　集　：　業　務　部　原　料　課

	3　月				4　月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本年	20.3	14.9	18.3	249.0	21.6	14.0	18.2	76.5
平年	20.8	14.5	17.5	105.7	23.1	17.1	20.0	147.3
平年との差	－0.5	＋0.4	＋0.8	＋143.3	－1.5	－3.1	－1.8	－70.8

製糖終了の御挨拶

生　和　糖　業　株　式　会　社

取締役工場長　　肥　後　　剛

さとうきび生産農家の皆さま、収穫作業大変お疲れ様でした。
昨年12月18日に操業を開始し、4月4日に無事操業終了いたしました。
昨年一昨年と2年連続の厳しい年から今期は、台風の影響が少なく気象条件にも恵まれ生育・品質共に上昇傾向にあることから年内操業を開始、当初生産量見込み70,000トンでスタートしましたが、操業開始後も生産量また品質も良く段階的に上方修正となりました。
最終的な生産量は昨年度より16,264トン多い77,332トンを確保しました。
品質におきましても、前年度より1.6度高い14.93度の買入糖度となり、ここ10年間で最も高い結果となり生産農家様におかれましても大変良い年になった事と思います。
しかし喜界島は台風の常襲地帯であり、また近年の異常気象による災害も念頭に置きながら油断することなく様々な諸問題に取り組んでいかなければならないと強く感じます。
今後も生和糖業は安全・安定操業に努めて参りますので、生産農家の皆さまにはさとうきび増産に向けて力を注いでいただき、互いに協力し取り組んで参りましょう。

第61期　製糖終了

今期は天候に恵まれ、さとうきびの搬入もほぼ予定通りに進み、2019/2020年度（第61期）製糖終了を迎えることができました。
生産農家の皆さまや関係機関の方々のおかげだと思っております。
皆さま、本当にお疲れ様でございました！
来期のさらなる単収アップに向け早期管理と雑草・病害虫の早期防除に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

◆◆◆　収　穫　面　積　・　生　産　量　の　推　移◆◆◆

作型 / 各年	夏　植			秋　植			春　植			株　出			合　計		
	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量
	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t
今期(2019/2020)	16,122	7,745	12,486	12,164	7,237	8,803	15,401	5,677	8,743	85,921	5,505	47,300	129,608	5,967	77,332
2018/2019	13,907	6,178	8,592	8,562	5,918	5,069	14,935	4,288	6,404	93,121	4,403	41,003	130,528	4,679	61,068
前期との差	2,215	1,567	3,894	3,602	1,319	3,734	466	1,389	2,339	-7,200	1,102	6,297	-920	1,288	16,264
2017/2018	19,535	7,616	14,879	8,392	6,390	5,362	14,157	4,944	6,999	99,860	5,267	52,597	141,944	5,625	79,837

◆◆◆　さとうきびの買入糖度・買入価格・トラッシュ率・歩留の推移 ◆◆◆

項目 / 各年	買入糖度	糖度帯（%）			平均買入価格	対前年比	トラッシュ率	工場歩留
	(%)	基準以下	基準内	基準以上	(交付金込)	(%)	(%)	(%)
今期(2019/2020)	14.93	2.8	23.5	73.7	22,810	108.5	10.56	12.78
2018/2019	13.33	40.0	40.9	19.1	21,051	104.6	10.35	11.45
2017/2018	12.19	77.8	18.0	4.2	20,126	88.2	7.11	10.29

さとうきび増産にむけて！

原料茎数を確保するために大切なこと！

多収実現のために！

- 茎数確保➡十分な量の健全苗植付や補植の徹底
- 雑草防除➡土壌処理を基本に中耕作業を組合わせる
- 適期管理➡植付・追肥・害虫防除など管理作業を適期に実施できる環境づくり

単収向上の三箇条！

○ 土づくりと土壌改良
○ 積極的なかん水の実施
○ 基本技術の徹底 初期生育の促進
（茎数確保・雑草防除・適期管理）

- 堆肥や緑肥、輪作による豊かな土づくりが増収の基本
- 土壌分析による土壌改良や深耕・心土破砕も忘れずに
- 植付時など生育初期のかん水が効果的
- 梅雨明け後すぐからの早期灌水を徹底

注目！

○ 株が生育しやすい状況をつくる

※ ポイントは、深耕と適正な畦幅・株間の確保。
30センチ以上を目標にできる限り深く耕し、土を柔らかくしましょう。
※ 植付時の畦幅は、ハーベスタでの刈取りや株出管理をしやすくする為に、120センチ以上を目安としましょう。

植付けが極端に遅れたり、苗質不良により、密植が必要な場合には、株間を調整する方法をとりましょう。

● さとうきびの安定多収生産の条件

- 早い時期の出芽・萌芽・茎数確保
- 春や梅雨の降雨を効果的に活用
- 干ばつ・台風被害の最小化

◎ 多収のための生育目標
‣ 梅雨までにキビを大きく育てる

畦幅が狭すぎると十分な培土が困難になり、倒伏や枯死茎が発生しやすくなります。

深耕すると、土中の空気・水分が増え、根の発育が良い。

ここがポイント

- 条件に適した品種を選ぶ。
- 台風被害の大きい圃場は夏植を検討する。
- 30cmを目標にできる限り深耕に努める。
- 緑肥作物の栽培をする。（雑草対策）
- 植付時に基肥を投入する。
- 生育時期に合わせた除草剤の散布。
- 計画的な肥料投入と培土。

緑肥からの夏植ほ場

編集後記

新型コロナウィルス感染拡大対応策として、全都道府県が対象となる緊急事態宣言が発令されたが、町の呼びかけを厳守し、来島者も、島外へ出る人も減少している。
町民の協力で本町では感染者は発生していないが、国内の発生状況は5月９日現在で累計感染者数15,747名である。
感染を避けるために3密を避け、マスクをして入念に手洗いをしよう。
しばらくは体調管理を徹底して感染リスクの低減に努めていただきたい。
一方、さとうきび畑ではチンチバックやワタアブラムシ、メイチュウ等の発生が見られる。
外出自粛期間ではあるが、病害虫防除を行い、しっかりさとうきびの管理をしていただきたい。